

地域の強み・魅力を生かした第2期の地方創生に向けて

令和2年1月14日

まち・ひと・しごと創生担当大臣 北村誠吾

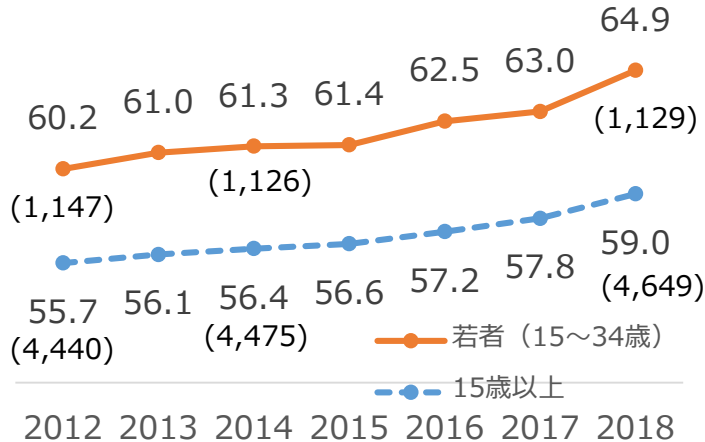
1. 第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

第2期「総合戦略」 <第1期の成果と課題>

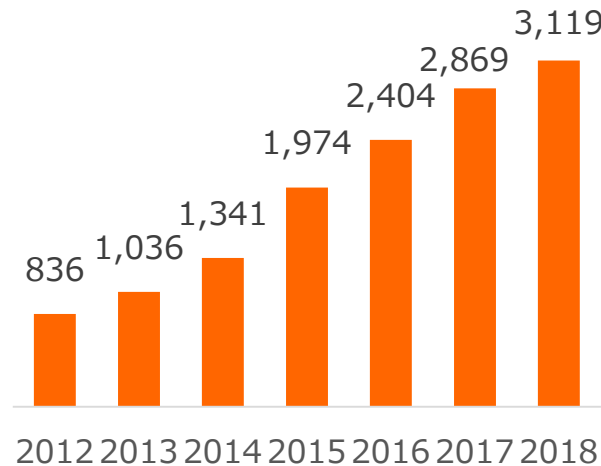
- 地方の若者の就業率、訪日外国人旅行者数、農林水産物・食品の輸出額は一貫して増加傾向にあるなど、しごとの創生に関しては、一定の成果が見られる。
- 一方、東京圏への転入超過は、2020年の均衡目標に対し、2018年は13.6万人となっている。景気回復が続く中、バブル崩壊後のピークの15.5万人（2007年）より下回っているが、地方創生がスタートした2014年からは一貫して増加しており、更なる取組が必要。

地方の若者の就業率 (%)

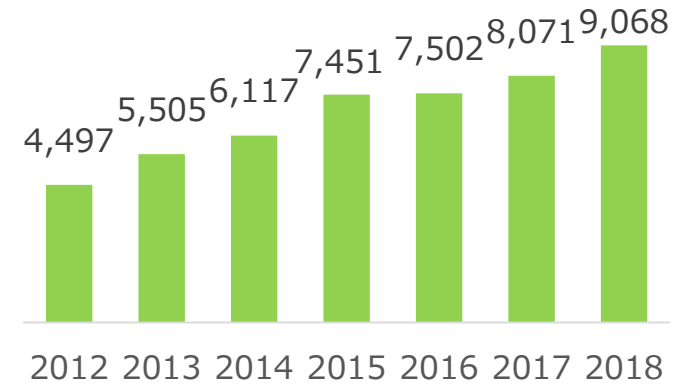
※括弧内は就業者数 (万人)



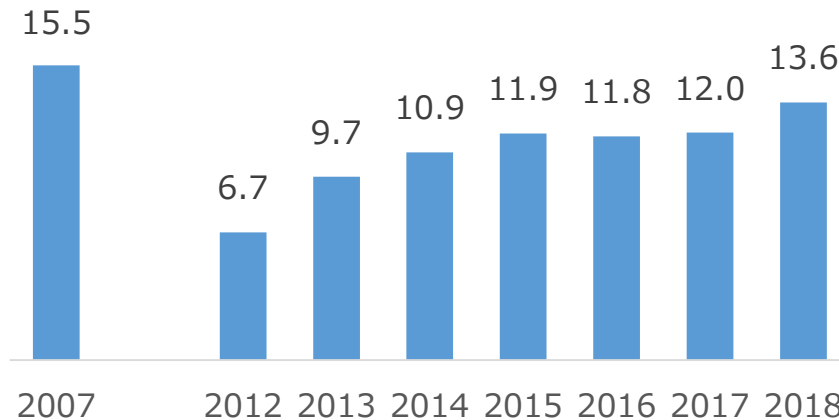
訪日外国人旅行者数 (万人)



農林水産物・食品輸出額 (億円)



東京圏への転入超過数 (万人)



＜課題＞

人口減少

東京圏への
一極集中



- 地方において地域社会の担い手が減少し、地域経済が縮小。更に、人口減少を加速させ負の連鎖に。
- 「まち」の機能が低下し、地域の魅力・活力が損なわれ、生活サービスの維持が困難に。



- 首都直下地震などの巨大災害による被害が大きなものに。

＜地方創生の目指すべき将来＞

⇒『将来にわたって「活力ある地域社会」の実現』と、『「東京圏への一極集中」の是正』を共に目指す。

将来にわたって「活力ある地域社会」の実現

人口減少を和らげる

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

魅力を育み、ひとが集う

地域の外から稼ぐ力を高めるとともに、
地域内経済循環を実現する

人口減少に適応した
地域をつくる

「東京圏への一極集中」の是正

1. 東京一極集中の是正に向けた取組の強化

①地方への移住・定着の促進



②地方とのつながりを強化

- ・関係人口の創出・拡大
- ・企業版ふるさと納税の拡充

地方移住の裾野を拡大

2. まち・ひと・しごと創生の横断的な目標に基づく施策の推進

①多様な人材の活躍を推進する

- ・多様なひとびとの活躍による地方創生の推進 等

②新しい時代の流れを力にする

- ・地域におけるSociety 5.0の推進 等

2. 地域の強み・魅力を生かした取組事例

宮崎県日南市の取組事例（油津商店街の再生）

〔取組の概要〕

- かつては中心市街地として賑わいを見せていたが、シャッター街となってしまった約400mのアーケード通り。
- 日南市は商店街の活性化を図るため、2013年、民間より「テナントミックスサポートマネージャー」を公募。333人の応募者の中から選定された木藤氏は、2013年から4カ年で商店街に20店舗の誘致の目標を設定。
- 同じく、2013年に「マーケティング専門官」として採用された民間出身の田鹿氏は、若者の働く場創出のために商店街空き店舗へのIT企業誘致を進めた。
- 2人の民間人を中心とした取組により、2019年8月時点でIT企業11社を含む29店舗の誘致が実現した。



スーパー跡の空き店舗を
活用した多世代
交流モールの整備



商店街の空き店舗を改修したIT企業オフィスの視察風景

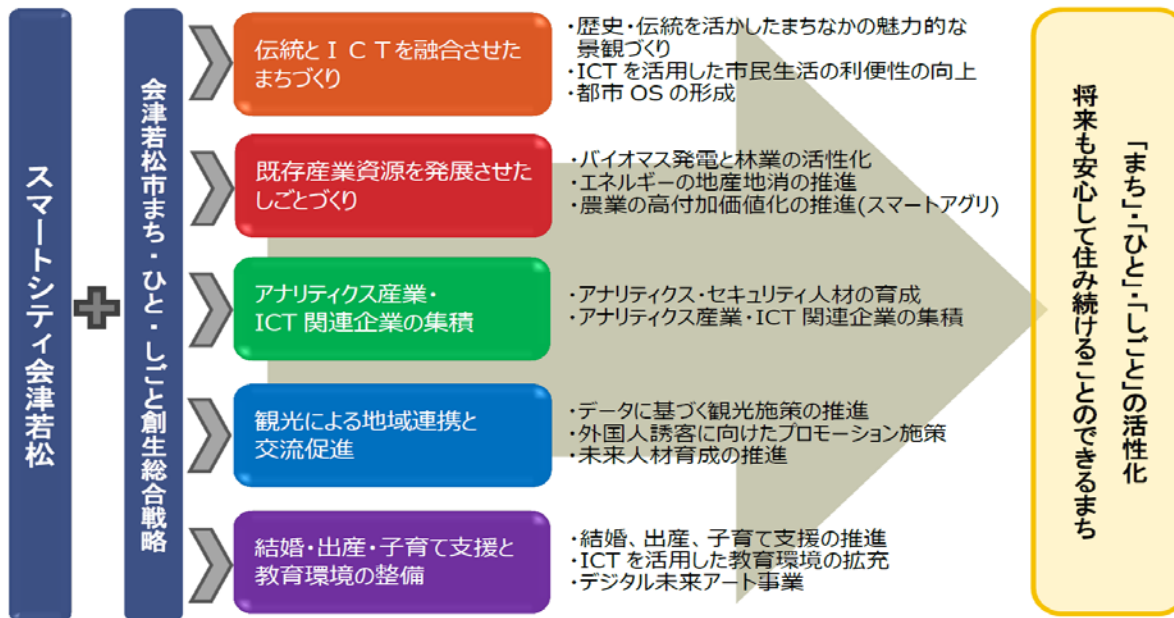
福島県会津若松市の取組事例(スマートシティAiCTの取組)

〔取組の概要〕

- 会津若松市は、ICT(情報通信技術)専門大学である会津大学が立地している特徴を生かし、2013年より、ICTや環境技術などを生活を取り巻く様々な分野で活用し、持続可能な力強いまちづくりを行う取組「スマートシティ会津若松」を実施している。
- ICT関連企業を誘致するため2019年4月に開設したICTオフィスビル「スマートシティAiCT(アイクト)」においては、これまでにコンサルティング大手の米アクセンチュアをはじめ、三菱商事、TISなど国内外の15社、約200人が入居しており、新たな人の流れや雇用の場の創出等、長期的な地域活性化を実現することが期待されている。

※ ICTオフィス環境の整備等に地方創生拠点整備交付金を活用

「スマートシティ会津若松」と「地方創生」の連携



データ集積 × アナリティクス × スマートシティ

ICT関連産業の集積、「ひと」の地元定着を目指して

スマートシティAiCT外観



入居企業との意見交換風景

千葉県柏市の取組事例（豊四季台団地の再生）

〔取組の概要〕

- 住宅団地の再生に併せて地域包括ケア機能の整備を図った事例。
- 豊四季台団地は、1964年から入居開始した独立行政法人都市再生機構（UR）の賃貸住宅団地であるが、現在では団地の高齢化率は40%超（柏市全体の高齢化率は25%程度）。
- 全ての世代が安心して暮らせる「まちづくり」を進めるべく、URが2004年に建替事業に着手。住宅の集約化・建替え等と併せて高齢者の地域包括ケアの拠点としての「柏地域医療連携センター」を2014年に整備・運営。
- 2010年より、東京大学高齢社会総合研究機構、UR、柏市の三者で協定を締結し、同地域をモデルとして、「高齢社会の安心で豊かな暮らし方・まちのあり方」を実践。

入居開始：1964年～

広さ：約32.6ha（柏駅から徒歩15～20分）

建替前戸数：4,666戸（103棟）

当時人口：約1万人 ⇒ 現在：約6千人

※ 写真は建替前



豊四季台団地の視察風景

千葉県柏市の取組事例(豊四季台団地の再生)

かしわ

とよきだ

ココファン柏豊四季台 (拠点型サービス付き高齢者向け住宅)



24時間対応の在宅看護、介護サービスの拠点と併せて、在宅療養支援診療所、診療所、薬局、子育て支援施設、地域包括支援センターも併設しています。

豊四季台公園
外出を促す地域空間として公園(約1.0ha)を整備しました。



四季のみちの整備
建替完了後には、団地内を周遊できる1.5kmの散歩道として整備予定です。



高齢者の生きがい就労

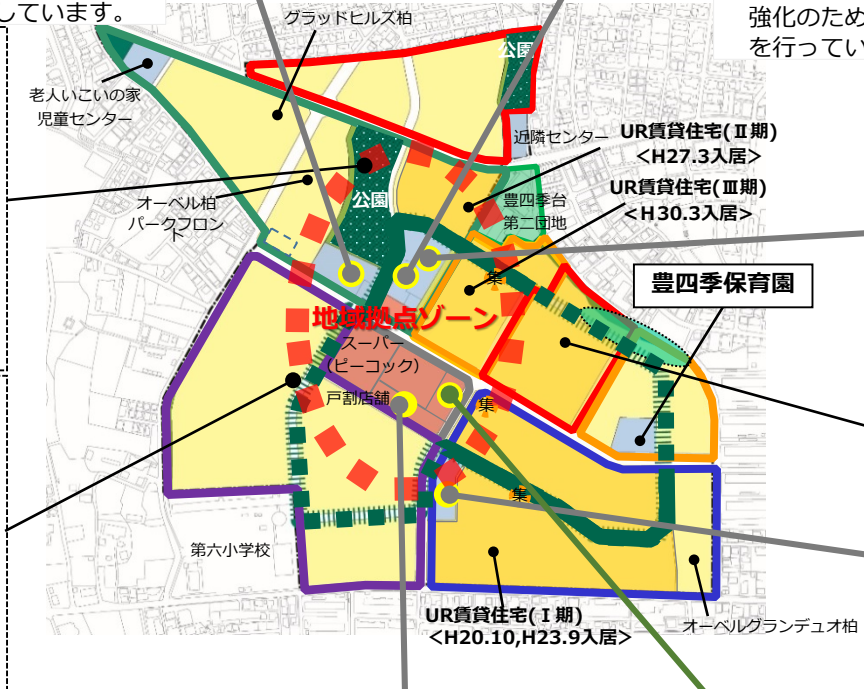
保育補助や介護補助の機会など、高齢者の方が地域で活躍出来る場を設けています。延べ200名以上の高齢者が就労し、「生活に張りが出てきた。」「たくさんの人と関わってうれしい。」等の声があります。

写真提供：柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会



▲保育・子育て支援

現在の整備状況図



柏地域医療連携センター

柏市医師会・柏市歯科医師会・柏市薬剤師会が共同で建設しました。柏市保健福祉部地域医療推進課があり、医療や介護に関する相談・啓発や、在宅医療が必要な方への調整支援、医療・介護の連携強化のための取り組みを行っています。



認定こども園 くるみ幼稚園・わらび保育園



生活支援アドバイザー配置

特別養護老人ホーム柏こひつじ園



地域活動館(仮)

豊四季台商店街の新戸割店舗スペースの一角に、地域住民相互の交流やコミュニティ形成を目的とした活動拠点を整備しました。地域のサークル活動や、コミュニティカフェの運営支援を開始しています。



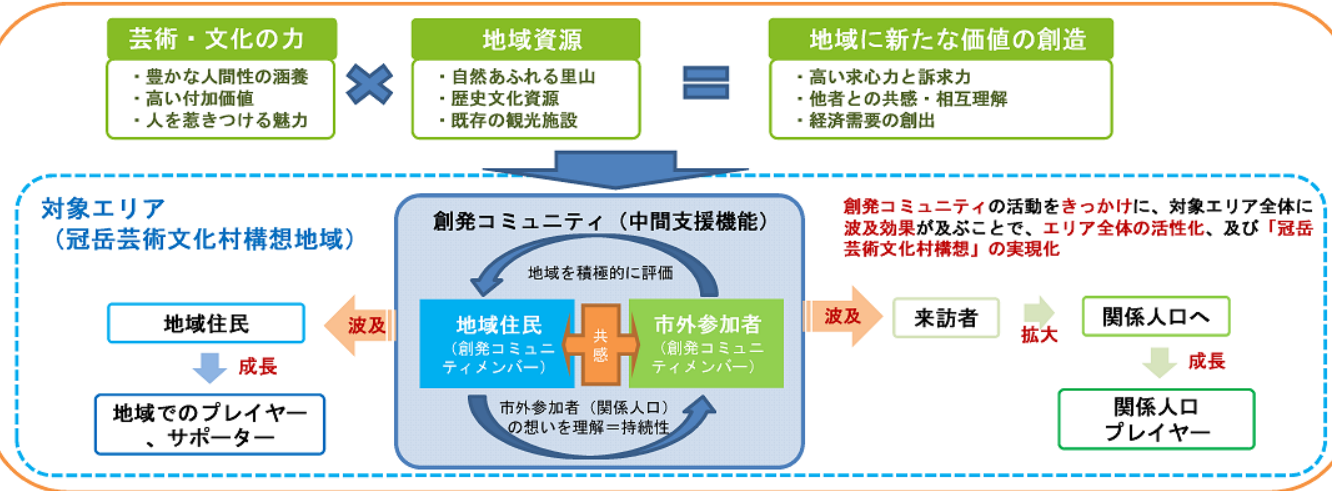
コミュニティ食堂

※計画調整中

高齢者の欠食防止と生きがい就労の場、コミュニティ形成の場としての機能の実現に向け、事業者のニーズを把握しつつ、公募事業者によるコミュニティ食堂の具体化を進めています。

〔取組の概要〕

- 地域資源と芸術文化が持つ力を掛け合わせて価値を創造し、体験や交流を通して、関係人口と地域住民からなる「創発コミュニティ」(中間支援組織「えんたく」)を作り、冠嶽芸術文化村構想実現策に取り組むことで、交流人口・関係人口の増加や移住者の創出を図る。
 - 芸術文化の人間の五感に訴える力で地域資源の価値を顕在化し、そうした価値に興味を持つ関係人口への訴求力を高める。また、芸術文化イベント等の開催を通して地域と関係人口が互いに認め合い、理解し合うサイクルを作ること、「創発コミュニティ」が継続的に関係人口を呼び込み、地域に参画する仕組みを構築。
- ※ 関係人口創出・拡大モデル事業(総務省)(2019年度)に採択



冠嶽もみじ狩り 散策ツアー

東川隆太郎さん、竹原勇輝さんとともに紅葉を楽しみながらまちの歴史を辿ります。途中、地域の素材を使ったオリジナル弁当を召し上がっていただき、最後には冠嶽温泉でゆっくりとひと時をお楽しみください。

11月22日(金)

10:00~14:00 (4時間程度)

10:00 冠嶽交流センター-駐車場集合

10:15 冠嶽歩き出発

冠嶽神社~岩屋不動明王~岩屋虚空蔵~装束着~坊主髷・大師堂~トイレ休憩~宇津良墓地~仁王像~王子堂~道の駅音~弘法大師尊像~冠嶽園

12:00 昼食 @ 冠嶽花川野跡公園

冠嶽の位置付けについてのお話

14:00 終了(温泉券配布)

当日のスケジュール(予定)

場所: 鹿児島県いちき串木野市冠嶽

参加人数: 20名程度

参加費: 3800円 (8人入/考案オリジナル弁当、飲み物、温泉入浴券付)

申込締切: ~11月21日(木) 17:00

申込先: 地域創発コミュニティえんたく 担当 小林

電話: 080-5384-8742

メールアドレス: entaku2019@gmail.com

※参加者名、電話番号、参加人数をお伝えください。

案内: 東川隆太郎/NPO法人かてしを模範の会代表理事 竹原勇輝/いちき串木野市観光協会代表理事 地域創発コミュニティえんたく

「えんたく」が主催する冠嶽芸術文化村構想推進の取組。その一環として、冠嶽温泉で紅葉狩りを楽しむツアーを開催。冠嶽温泉は、冠嶽の歴史と文化を伝える重要な場所として、観光資源として活用されている。本ツアーでは、冠嶽の歴史と文化を学ぶとともに、美しい紅葉を楽しむことができる。また、冠嶽温泉の天然温泉でゆっくりとひと時をお楽しみいただける。参加費には、オリジナル弁当、飲み物、温泉入浴券が付く。参加人数は20名程度。申込締切は11月21日(木) 17:00。申込先: 地域創発コミュニティえんたく 担当 小林 電話: 080-5384-8742 メールアドレス: entaku2019@gmail.com ※参加者名、電話番号、参加人数をお伝えください。

平日 11月23日「冠嶽山物産展」にて「えんたく考案オリジナル弁当」の販売をします。ぜひお立ち寄りください!



冠嶽園(同市の徐福伝説を基にした中国風庭園)



田畑市長との意見交換風景

[取組の概要]

- 日置市は、企業版ふるさと納税を活用した観光PR活動やマタニティボックス配布の取組を実施。
- 「ひおきPR武将隊」…市職員自らが甲冑姿の武将隊に扮して県内外の様々な催事で物販やチラシ配布等を行ってPR活動を行い、「戦国島津ゆかりの地」=「日置市」という強烈なインパクトを与えるだけでなく、SNSや口コミなどでの拡散と知名度向上を狙う取組を展開。
※ 寄附額:H30実績額 4,249千円 R1見込額 23,426千円
- 「マタニティボックスひおきコウノトリ便」…子育て世代の人々が住んでみたい、住み続けたいと思える市の形成を目的として、地元企業と協力して開発した「マタニティボックスひおきコウノトリ便」の配布事業を実施。
※ 寄附額:H29実績額 9,100千円 H30実績額 9,900千円 R1見込額 7,000千円

ひおきPR武将隊



マタニティボックスひおきコウノトリ便



ARスタンプラリー



駅ジャック(大型バナー掲出)



甲冑着付け体験



ひおきPR武将隊との面会風景



福井県永平寺町の取組事例(自動運転実証事業の取組)

〔取組の概要〕

- 永平寺町は、2016年度に産業技術総合研究所による小型電動カートを活用した自動運転の実証地域(過疎地モデル)に選定。鉄道廃線後に遊歩道となっていた「永平寺参ろ一ど」を再整備し、2019年度からは実用化を想定した国内最長となる6か月間の長期連続運行の実証事業を実施。
- 加えて、永平寺町においては、地域住民の共助による地域のための新たな移動手段の仕組みの構築と高齢者の外出支援等を目的にデマンド型交通(「近助タクシー」)の試走運行も開始。

※ 自動運転を活用したまちづくり事業等に地方創生推進交付金及び地方創生拠点整備交付金を活用



自動走行車への試乗風景

奈良県天理市の取組事例(天理駅前広場コフンの取組)

〔取組の概要〕

- 天理市内に約1,600基ほどある「古墳」を想起する野外ステージや大型遊具をはじめ、カフェや観光案内などの機能を備えた駅前広場を2017年4月にオープン。イベントの開催や観光、ものづくり、農業情報の発信、近隣住民の憩いの場として活用されることで、周辺地域のにぎわいの循環を生み出している。
- 地元の野菜を販売する「コフンマルシェ」など、広場を活用した地域イベントを年間約400件開催(2018年度)。

※ イベント運営等に地方創生推進交付金を活用

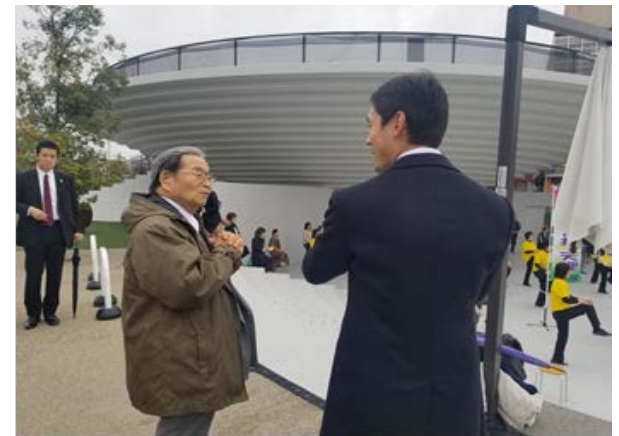


天理駅前広場コフンの全景

写真 太田拓実



広場を活用した地域イベント



天理駅前広場コフンの視察風景